

軍国少女だった私

萩原 蓉子

私は昭和10年（1935年）生まれ、83歳の老婆です。日毎に物忘れが激しくなっていくのに、戦争中のことは、不思議なほどに鮮明に蘇ってきます。

「撃ちてしまふ」欲しがりません。勝つまでは「鬼畜米英」…。隣り組の防空訓練にも進んで参加していました。今思つと、着弾したことを想定して、その消火に当たるなど、何ともバカげたことを真剣にやっていたのです。国民学校（小学校）3年の時、「集団疎開」に行きたい人？」と、先生が尋ねました。真つ先に手を挙げたのは私でした。疎開が何かわかりもしないのに、勝つために必要なこと」と直感したのでしょう。

当時、私たち一家、父母と兄、弟と私は、東京の杉並という武蔵野の面影の濃い郊外に住んでいましたが、N飛行機製作所という、大きな工場の前を通つて通学していました。当時、空襲でもあれば、標的にされる所だったでしょう。「集団疎開」は、そんな事情もあつてのことだったかもしれません。

僅か10歳の子どもが、親元を離れるということは、一大事だったはずですが、それがお国のためになることらしいと思ひ込んでの挙手だったのだと思います。

半世紀以上も前のことなのに、上野駅の一隅で汽車を待ったシーンが遡ってきます。

宮城県志田郡松山町。一面の稲田が広がっていた風景がよみがえってきます。みんな親元を離れての生活は初めてでしたが、極端な食料難にあえいでいた東京に比べれば、毎日、白いご飯にありつけたことは、大変な救いでした。胸を張つて自ら選んだことだったので、淋しいと

戦争体験手記募集を見て、お寄せいただいた手記を順次掲載しています。

私の戦争体験 (24)

寄稿

か辛いと思うことはありませんでした。東京は日まじに空襲が激しくなったので、私の家族（母と兄、弟）は、母の故郷・福島県会津に疎開しました。母は早速、私を迎えに来てくれました。「せつかく迎えに行つたのに、うれしそうな顔もなかったんだよ」。母は、幾度となく言いました。多分、家族の所へ帰つていくのは、集団疎開の脱落者になること感じて、あまりが悪かったのだでしょう。私たち家族は、ここで終戦を迎えることになりました。田舎に住んでいるとはいへ、都会からの流れ者に収入の道もなく、なけなしの衣服と物々交換で、米やその他の食料を得るといふ毎日でした。昼食の時間になると、学校から走つて家に帰り、代用食を食べてまた学校へ、ということもありました。戦況を知る手だては、新聞とラジオだけ。それも、敵の損害は過大に、味方のそれは極端に軽く報道されていたというのに、多くの国民はだまされていたのです。それでも、日本の敗色は日々深刻になっていきました。

「耐えがたきを耐え、忍びがたきを忍び…」玉音放送でした。現人神と称された天皇の肉声が、神国日本の敗北を告げたのです。広島・長崎に原爆が投下され、幾十万の無辜の民が命を奪われた後に…。

兄は泣いていましたが、私はただぼんやりしていました。軍属としてシンガポール（昭南島）に行つていた父は、地元に住民にかしづかれて、王公貴族のような生活をしていたそうです。それが一転、「バカヤロー」の罵声を浴びせられながら、いのちから復員船で舞鶴に帰還しました。

何十年もの永い間、私はこの戦争について語ったことはありません。国の為、命を奪われた多くの同胞は、永久に報われることはないのです。それなのに、何事もなかったかのように、平和な日本を享受している多くの日本人にとつて、大東亜戦争は、原子爆弾の投下は、何だったのでしょうか。

「敗戦」という選択肢が正しかったから、今の日本の繁栄があるのは確かです。でも「聖戦」とつたわれて、多くの同胞の、そればかりか相手国の民衆の命を奪つた殺し合いが、まるで手柄のようにもてはやされたことが、油断をすれば、再び繰り返されるかもしれない。しかも、過去のものとは比べ物にならない規模において。

かつての「軍国少女」は自らを恥じて、せめて、戦争犠牲者の無念をわすれまいと思つと同時に、今、再びの惨劇を自分のこと、自分の子々孫々のことと捉えて、戦争反対を唱え続けてほしいと、熱望しています。

11/23 (金・祝) 第17回 地域健康まつり

場所：協和町東公園（耳原総合病院東側）

■ 午前10：00～午後2：00(小雨決行)

■ 抽選会 午後1：30

★健康チェックコーナー(無料) ★ミニ運動会

★ミニコンサート ★沖縄民謡など

★フリーマーケット(模擬店)

地域、友の会、職員による出し物

◆主催：第17回 地域健康まつり実行委員会

◆共催：大仙西校区自治連合会

豪華景品が当たる！ お楽しみ抽選会

協力券発売中 200円

1等 商品券3万円(1本)など

カギを解き、二重ワクに入る文字をABC順に並べてできる言葉は何？

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16

タテのキー

① 霧中

② 中・下の3巻

③ が出る＝赤字

④ 前投票

⑤ 〆の正面だーれ

⑥ クリスマスの頃大活躍のーさん

⑦ 雪駄。何と読む

⑧ たた今ーのテスト中

⑨ 兄弟姉妹の娘

⑩ 一般的な終業時刻

⑪ 年表を丸ーする

⑫ 〆それをーが鉄砲で撃つてさ

⑬ 恐怖のーの刻印り

⑭ 金庫の中のー束

⑮ 歴史のーを感じる

⑯ 〆に火を点すような生活

⑰ 〆の最後っ屁

⑱ 入試の傾向とー

ヨコのキー

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----

● 9月号の答 「ジュウゴヤ(十五夜)」

● 応募数/88通

お楽しみクイズ クロスワードパズル

● 応募方法/郵便ハガキにクイズの答え・住所・氏名・年齢・電話番号・友の会に対するご意見等を記入のうえ、あて先/〒590-0821 堺市堺区大仙西町6丁184-2 友の会事務局「お楽しみクイズ」係あてにて郵送ください。

● しめきり/2018年12月12日(水)消印有効

● 当選発表/厳正なる抽選の上、10人のかたに賞品(図書カード500円分)を、賞品の発送をもって発表に替えさせていただきます。

● クロスワードパズル解答はきに書かれた「ご意見」は、紙面に掲載させていただくことがあります。ご了承ください。

俳句

秋晴に落葉くるくる山あるき

赤とんぼちやらんぼらんぞ今日も暮れ

酔いしれて月を抱くや千鳥足

中島 和久

笹岡野乃花

竹内 英子

川柳

列島は地震豪雨に荒らされる

守らぬ奴に憲法変える資格なし

安東 利彦

堺谷九条男

短歌

台風の真つ只中に夕刊を

届けし人に勇気有りけり

手嶋喜代子

＊句を詠む時の情景や思いもお寄せください。

＊俳句・短歌・川柳の次回締め切りは、2018年12月12日(水)です。

＊特に、俳句・短歌のご応募お待ちしております。